

学校点描

マイマイ蛾の幼虫が大発生して困っている日々です。

《M中学校》

NO. 3 H27. 5. 12

担当：教頭

たよりを出して以来、感想のメールをいただいております。ありがとうございます。内容の紹介については差し控えておりますが、しっかりすべてのメールを読ませていただき、参考にさせていただいております。

5月10日（日）には、地区中体連駅伝大会が開催されました。大会ではアクシデントもあり、男女ともになかなか思うような結果を出すことができなかったようです。それでも、雪の降るときから、朝練習を行ってきた努力の価値は決して下がることはありません。ここからは生き方の問題です。今後生きていく中で、結果がなかなか思うように出ないこともあるはずですが、そんな時でも、目標に向かって努力することに価値を見いだしてほしいと願うのです。

他から生かされているという実感

いよいよ、地区総体に向けて、各種大会が目白押しになってきました。私が担当する柔道部も、先週の土曜日から、東北少年柔道大会のために岩手県盛岡市に遠征しました。バスの運転もホテルの手配も保護者の方々が協力的に行っていただきました。

9日のお昼に部員を集め、スクールバスで出発です。

すると、部活動をしていたブラスバンド部員やY先生、K先生、KE先生、H先生が玄関にでてきてくれました。見送りです。きっとY先生の指示なんだろうと思いますが、とってもうれしいです。

ブラスバンド部部長のN・Aさんが激励の言葉を言ってくれました。

柔道部主将のT・Rさんが、それにこたえます。

同じ学び舎で学んでいる仲間意識が育っているようです。

展示ホールには、昨年の生徒会の生徒たちが作成したと思われる、いじめアンケートの結果が今も貼られています。

『実際にいじめを見たり聞いたりしたことがあるか？』という設問に、全校生徒の21%があると答えているようです。内訳は、昨年の1年生（現2年生）が24%、昨年の2年生（現3年生）が18%、3年生（卒業生）が21%と答えていました。

具体的内容としては、『暴力・悪口・LINEでのネットの悪口の書き込み』と書いていました。

結構貴重なデータですね。昨年度のこのアンケート結果から、生徒たちは、スマホ等のLINEでの書き込みによるいじめの多さを指摘しています。

さて、この調査は、今年度も行ってもらいたいものですが、今年の生徒たちはどうでしょう。これとは別に、来月には、山形県で決められているいじめアンケート調査を実施します。こちらは、学校が行うものなので、生徒会で実施したものとはまた別の数字になるかもしれないかもしれません。

いずれにしても、このいじめ根絶は、どの学校でもしっかり行わなくてはならない取組です。わたしは、この取組で大切なのは「他者から生かされている」という思いを持たせることだと考えています。

自分という存在は、周囲の人々から生かされて成り立っているのだと。そのことを、理解している子どもと、「自分は自分だ。自分の力で生きている」と考えている子どもとでは、いじめを目にしたときの対応が違ふと思うのです。

部活の遠征に、保護者が力を出してくれたこと。同じ仲間の生徒や先生が、激励の言葉をかけてくれたこと。それらはすべて、「自分は、家の人や仲間から支えられている」という実感を持たせることにつながります。

試合の結果も大切ですが、これから生きていくうえで最も大切なのは、こんな、自分の存在は周りとのつながりで成り立っていると感じさせることなんですね。だからこそ、仲間といっしょに努力することで、こんな気持ちを育みたいわけです。

部長のN・Aさんの激励の言葉のあと、「他に出し物ないのか？」と顧問であるY先生がブラスバンド部の部員に焚きつけます。

ブラスバンド部員、ちょっと困り気味。すると誰かが

「H先生、エールして？」なんて言います。

H先生が一行に整列している柔道部の前で、堂々とエールをきってくれました。

「フレ～、フレ～」いきなりなので、ちょっと音程が外れ気味。生徒たちも、爆笑しています。

でも、しっかり柔道部員には気持ちが届いています。

これがいいんです。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp